

「映像で自分の歯を見るのは、鏡で口の中を見るのは全然印象が違いました」「顕微鏡治療を受けた患者は、口を輝かせてその体験を語った。歯科治療の世界に革命を起すともいわれるこの最新技術は、患者に大きなメリットをもたらすという。従来の目視の治療とは一体何が違うのか。その現場を報告する。」

「通院1回でOKで痛みも再発もない」

第2回

患者たちの驚きの声続々! 「見える歯科」

「よい歯科」「ダメな歯科」を見分けるための新しい「モノサシ」が生まれる



伊藤隼也と本誌取材班

医療ジャーナリスト・写真家

物をする治療を受けましたが、モニターで治療の過程を見せてもらうと、なるほどよく見えるなと思った。同じ仕事をしているけど、目視ではあそこまで細かい作業はできません。それでも僕が顕微鏡を導入しないのは、機器が高額すぎるから。例えば治療の質が上がるとはわかっているのですが……」

本誌前号からお伝えしている顕微鏡歯科治療。顕微鏡を使い最大20倍まで歯を拡大することで、暗くて狭い洞窟のような口の中がくっきりと見えるようになる、いわば「見える歯医者」だ。

神奈川県で歯科医院を経営する小谷明さん(仮名・40代)は、実は顕微鏡歯科治療を受けるために東京都内に歯科医院を訪れていると告白する。「歯科専門誌で顕微鏡治療のことを知りました。被せ

患者もゴーグルを通して映像を見られる。治療後にはモニターを見ながら説明を受ける(写真是デンタルみつはしの治療風景)

これにより、自視の治療で起こりがちな虫歯の削り残しや隣接の歯を誤って傷つけることが激減。特に難易度が高いとされる根管治療(歯の根に当たる管状部分の治療)においては、顕微鏡の普及しているアメリカで98%という成功率が調査公表されている。まさに歯科医療界の革命と期待される治療法なのである。

一体化した歯科用顕微鏡が患者を待つ。

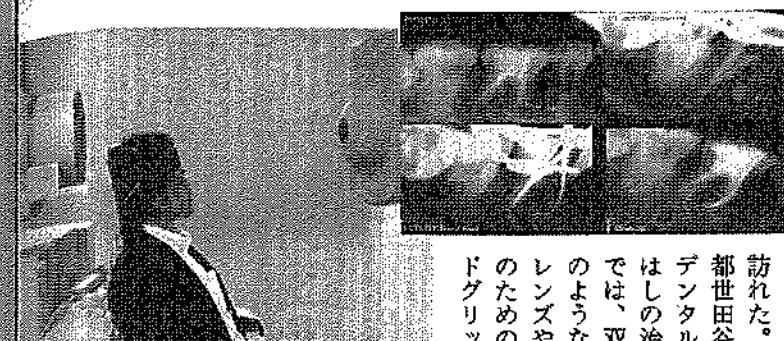
会社員の中川和夫さんは（仮名・20代）は以前、他の医院で奥歯に金属の被せ物をしたが、その下に虫歯ができてしまい、穴が開いた状態だという。

院長の三橋純医師は、仰向けになつた中川さんの口の中を、顕微鏡のレンズを通して座つたまま真正上から

いいます。神経まで処置が必要かもしれません」中川さんは自分の歯を眺めながら、またしてもう一つの歯を眺めます。「この歯も、もう少し治療すればいいのに」と、歯の穴のすみすみまで鮮明に映し出され、細かな作業を助ける。隣に座つて画像を見ながら作業する助手と

「治療の説明は、画像を見ながらなのでとてもわかりやすかったです」(中川さん)
都内在住の30代主婦・与五沢純子さんもこの最先端治療に感動したひとりだ。

「私がを目指しているのは、
全力投球の治療。いい治療
にはいい機材も必要で、そ
れなりの費用がかかるもの
なんです。当院はすべて保
険外治療ですが、7年間、
再発に対する保証を付けて
います」



眼管のごく小さな疾患もCTがクリアーに(=右。左はCT撮影風景)

覗き込む。フットペダルを使い、右足で巧みにズームやフォーカスを操る。「中にズームインするといつぱいに拡大されカラララ」と、ベッド前のモニター画面に映し出された。

ディスプレー（HMD）を装着。これにより、治療中の歯の拡大映像がリアルタイムで患者の目前に現われる。歯の変色した部分を器具で触りながら、三橋医師が語りかける。

三橋医師との連携はスムーズだ。虫歯を削り取った後には、成樹脂（レジン）を充填する。その後、一連の治療過程がモニターに再生され、三橋医師が映像を見ながら治療内容を説明し、約

私の勧めで受診した夫は他の歯科で治療時に折れたファイル（器具）が根管の中に残っていることが判明しました。それも顕微鏡でないとわからなかつたでしょうね」

「以前、他の医院で保険診療で治療したところ、詰め物が取れて虫歯が悪化してしまいました。そんな経験があるので、安い治療で再発のリスクを負うより、高くて一生自分の歯ですませたいと思い、自費の頑張り治療を選びました」

歯科医を見分けるモノサシ

「日本の多くの歯科医は、1人10～15分の治療で1日30～40人も診てするのが現状ですが、それで再発のない質の高い治療ができるとは思えません。アメリカの歯科医を見た
「あらゆる面で診断・治療の精度が格段に向上しますし、疾患の早期発見や的確な経過観察が可能になりますし、除去すべき組織と残すべき組織の判別もしやすくなつた

て虫歯の削り残しも減ります。
手探りで恐る恐る進む治療から、景色を見ながら行く治療へと歯科が変わったのです」（三橋医師）
これまで「密室」だった歯科治療にCCDカメラが入った意味は極めて大きい。可視化に加え、映像を確認保存することで患者自身が

「治療中にHMDを着けて自分の歯の映像を見ながら、これはブラークです。」
「これは丁寧に磨いたほうがいい」と細かく説明をしてもらいました。鏡で口の中を見るのとは全然違う。見たくない部分まで見えてしまいますが（笑い）、安心感があります」

すれば、患者はカルテ代わりに正確な治療データを共有できるようになるかもしない。

また、治療実績が外部に開かれることで、歯科の客観的評価も可能になる。明確な選別基準がなく、玉石混淆の歯科業界において、「よい歯科」「ダメな歯科」を見分けるための、モノサシが生まれる可能性も高い。

ガラス張りになれば歯科治療の質の向上も見込まれる。

こと、売れる前のものか400万～500万円ほどで、カメラやモニターなどをそろえると、1000万円する場合もある。

根管治療の専門医が診る1日の患者数は、4人程度ですから」（寺内医師）

治療内容を直接把握できるようになり、歯科医の現場でも質の高いインフォームドコンセントが可能になつたのだ。

「治療中に映像を見て、治療が終わってからもう一度見て説明を受けました。私の治療映像は全て病院が保管しているので、過去の治療内容がいつでも見られるんです」

る。もちろん、この恩恵を受けるのは私たち患者である。
その鍵となるのは顕微鏡の普及だが、日本での販売実績は2000台弱と少ない。

具で触りながら、三橋医師
が語りかかる。
「この茶色い部分が虫歯で
す。すごく軟らかくなつて

受けた「コンボジットレジン修復」治療にかかる費用は、自費で1本3~4万円。また、保険適用での大

（神奈川県大和市）での治療費用は13万円強。ちなみにアメリカの同費用は20万円

実質的な治療は終了し、後は期間ごとにケアのため通院してもらう。

訪れる患者の98%が再治療

くても一生自分の歯ですませたいと思い、自費の顎微鏡治療を選びました

前出の与五沢さんの証言。「以前、他の医院で保険診療で治療したところ、詰め物が取れて虫歯が悪化してしまいました。そんな経験があるので、安い治療で再発のリスクを負うより、高